

令和5年度 第1回名護市総合教育会議 議事録

日 時	令和6年3月5日（火） 15:00～16:00
場 所	庁議室
出席者	渡具知武豊市長、岸本敏孝教育長、大城千代子教育長職務代理者、宮城恵次委員、宮城司委員
事務局	岸本尚志教育次長、玉城利和（教）総務課長、日高毅一（教）総務課総務係主事
関係部局	大城正章学校教育課長、宮里琢也学校教育課主幹兼学校指導係長、仲井間修企画政策課・情報政策課長
関係者 又は 学識経験者	なし

発言者	内容
事務局	<p>本日は、お集まり頂きありがとうございます。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定により、名護市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>それでは、次第に沿い、始めに渡具知市長、ご挨拶をお願いします。</p>
渡具知武豊市長	<p>みなさん。こんにちは。「令和5年度 第1回名護市総合教育会議」の開催にあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様には、平素より、本市の教育行政にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。</p> <p>教育委員をはじめとする学校関係者の皆様には、多様化、複雑化する社会情勢において、様々な教育課題が顕在化するなか、本市の未来を担う子供たちの健やかな成長のために、日々ご尽力いただいていることにつきまして、重ねてお礼を申し上げます。</p> <p>さて、改めて教育現場に目を向けますと、本市には、分校を含めて小学校14校・中学校8校が設置されており、これまで人口増加に伴い、学校運営に支障をきたさないよう、教室の増築や多目的教室の一時転用等により教育環境の整備に努めてまいりました。</p> <p>しかしながら、市街地の一部学校において、過大規模校化が進んでおり、今後もその状況が続くことが予想されております。また、1学年1学級の小規模校についても、今後の推移を見守り、複式学級とならないよう注視していく必要があります。</p> <p>皆様方には、「名護市立学校における適正規模・適正配置に向けた取組」につきましてご協議いただきたいと存じます。</p> <p>今回の総合教育会議をとおしまして、本市の教育に係る方向性を市長部局、教育委員会双方において確認、共有し、これからも安全安心な教育環境が提供できるように取り組んでまいりたいと思っております。</p>

	<p>で、どうか皆様には、それぞれの立場において忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願い申し上げます。</p> <p>結びに、本市の教育行政のますますの発展と本市の子どもたちの健やかな成長を願うとともに、本日ご参集の皆様の健勝とご活躍を祈念申し上げ私からの挨拶といたします。よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>渡具知市長ありがとうございました。</p> <p>それでは引き続き協議の進行を渡具知市長お願いいたします。</p>
渡具知武豊市長	<p>それでは、会議次第の2、協議事項に移ります。協議事項の「名護市立学校における適正規模・適正配置に向けた取組について」担当部署より説明をお願いします。</p>
協議事項1 名護市立学校における適正規模・適正配置に向けた取組について	
学校教育課主幹	<p>※会議資料「名護市立学校における適正規模・適正配置に向けた取組」について担当課より説明。</p>
渡具知武豊市長	<p>それでは、担当部署から説明がありましたが、意見等があればお願いします。</p>
大城千代子教育長職務代理者	<p>私の住む地区の天仁屋を例にして申し上げますと、今は緑風学園に統合されて12年ほどになりますが、学校統合の計画の話を受けた当初の天仁屋小学校は、在籍児童が10名程度で全学年複式学級でした。学校行事などの運営が卒業生や地域の方がたの協力が無いと難しい状況で、運動会などの競技参加、学校の草刈や手伝いなどで大変苦労していました。</p> <p>私個人としては、児童生徒が極端に少数の場合、児童同士の意見が異なった場合の向き合い方や共同して何かに取り組むという本当に必要な体験が少ないので、いろんな教育環境を提供するには、ある程度の規模が必要という考えで統合を推進していました。地域の方々も高齢化している状況で統合に前向きであったと記憶しています。</p> <p>ただ、他の地域では、それぞれの地域の事情等もあり、すぐに統合という考えには至らず、久志小学校に暫定統合するまでも3年ほどかかったと記憶しています。</p> <p>今、緑風学園は1年生から英語の授業が導入されており、特認校制度で名護市全区域から児童を受け入れし、こども達もいろんな議論や体験もできる良い学校だと感じています。</p> <p>今後、学校の統合や通学区域の変更を考えるにあたっては、過大規模校と小規模校の両極の中で学んでいる子供達にとってより良い教育環境を提供することが一番重要と思いますが、地域の方の思い、保護者の方々考え、地理的環境など様々な要素を加味しないといけないので、教育の点からだけではなく、まちづくり、地域づくりという広域の視点でもこの問題に取り組んでいただきたいと思います。</p>
渡具知武豊市長	<p>仰る通りです。</p> <p>安和小学校については、住宅環境の整備をして、一時的に児童が増えてはきたのですが、推計を見ていくとまた、減少していくような傾向があります。市営住宅の要請は各地域からあり、一時的にそこに子供たちや若い世代が住み児童数などは改善するのですが、それ以降は</p>

	<p>世帯の入れ替わりがあまりないので徐々にもとに状況に向かっていきます。緑風学園については統合したときに、1年生から英語教育を取り入れて、今屋我地も取り入れていますが、それが一つの生徒を呼び込む環境ということになっています。小規模校をどうしていくかというのは先ほどもありましたように地域の方々、保護者の方々との意見交換はしていかないといけない。それと同時に過大規模校とのバランスなど、様々な要素について会議を重ね、方針立てて解決していく必要があると思っています。</p>
学校教育課主幹	<p>天仁屋小学校の例について、地域の方々や保護者が負担を感じる状況に至るとするのはよくないと考えていて、児童の教育環境、将来的なことを加味して、この方法が良いと教育委員会として、行政として、何かしらの手を先に打つというのが本来在るべき姿なのかと思っています。</p>
宮城恵次委員	<p>いろいろな統合の形があると思います。緑風の場合の統合の仕方は小さい学校同士が統合して学校ができました。例えば子供たちの数からすると瀬喜田小学校とかかなり厳しい状況にあると思います。仮に統合するとなると、緑風学園の場合と異なり、市内では比較的近くにある東江小学校などの大きな学校に統合していくことになると思います。そういった場合、複式の教育というのはいかに厳しいのかということを保護者の皆様にしっかり伝えていく必要があると思います。</p> <p>学年が異なる児童が同じ教室で、45分の授業の中、半々で教えられるというのは学習の面から考えると良いはずがありません。そういう複式学級が子どもたちに与える教育の厳しい状況を保護者の皆様にしっかり伝えていくことが重要だと思います。それともう一つ人間形成、社会形成する上でも、やはり多人数の中で子供たちが話し合いをしたり、一緒に制作活動をして、いろいろなことを解決するという体験であったり、そういうことでも少人数というのとは良くない面があります。学校に通っているとしても、細かなところ、子供達が成長していく面で、かなり厳しいところがあることをしっかり伝える必要があると思います。</p> <p>あと、過大規模校の対策ということで、校区の変更とありますが、これはいきなり校区を直しますということではありませんよね。選択期間を設けて様子を見るとか。選択制にして少しずつ変えていくということでしょうか。</p>
学校教育課主幹	<p>校区を変更する場合は、調整区域という形で残すことになります。例えば、名護小学校の校区になっている大中区を東江小学校の校区にしますとなった時に、大中区全域が調整区域となって、就学通知で、通う学校は東江小学校と案内されるのですが、指定校変更制度で希望する場合は、申請をしていただくと元の校区である名護小学校へ通うことも可能となります。そういった形で調整区域の設定をして、兄弟の通学関係などもありますので数年かけて調整し、そろそろという時期に調整区域を外して本格的に東江小学校の校区ということになると思います。</p>

宮城司委員	資料7ページの中・大規模小学校児童数の推移を見て、こんなに増減があるのは改めて感じているところですが、各小学校の人数の変動の推移は何か原因があるのでしょうか。例えば小学校1年生で上がってくるときに校区の名簿上では115～120名くらいいてもいざ入学式になり確実に入ってくる子は90～95名くらいです。元々の名簿の人数から他学校へ流れていく原因があるのですか。
学校教育課主幹	名護市は、人口自体は増えてはいるのですが、それは宇茂佐の森・宮里・為又等一部の地域に限られています。実は名護小学校の校区はすごく児童生徒の数が減少していて、800名となっていますけども、実際はもっと少ない状況にあります。説明資料の12ページで市街地の5小学校の指定校変更での転入転出を比較した数字があります。指定変更制度は、例えば屋部小学校の校区だけど、大宮小学校に親戚とか祖父祖母等がいて放課後見てくれるとか、いろいろな条件が合致するものについては、指定校の変更を認めましょうというもので、名護市はおそらく全国でも緩い基準を採用しています。その為、流動性がすごく激しい状況です。増減表で見ると、H15年からR4年の平均で屋部・大宮・東江・大北が減少した分を全て名護小学校が受け入れているという感じになります。名護小学校は校区以外から毎年50名受け入れているという形になります。しかし、それが逆に言えば屋部小学校と大宮小学校のこれ以上の増加を現在抑えているという形になっていますが、一方で東江小学校と大北小学校が減少しているという原因にもなっている状況です。この辺の関係性が複雑な為、実際指定変更を止めてしまうと名護小学校だけが減少し、他学校は増加するという形になるので、屋部小学校と大宮小学校が問題になってきます。この指定校変更制度は各学校の関係性が複雑なため、簡単には触れられないところでもあります。
岸本敏孝教育長	今回、屋部小学校の増築に伴って申請をする段階で、県と調整して特別支援学級を含めて30学級以上ということで増築が認められました。今後、増改築等を行う際には、分離新設、通学区域の調整等適正規模化のための方策が十分に検討されていない場合、国庫負担の対象外となる可能性があります。先ほどの話でもありましたが、何年も複式学級の状態が続く状況であったり、人口は密集しているが、子供の割合は少なくなっている状況であったりと、今後も変化していくと思います。この辺も見据えて、大規模化、小規模校の複式学級の問題に、早めその方向性を決めていかなければならないということで、令和5年度基礎調査を行い、次年度それを受けてシミュレーションをしながら方向性を見出していくことになると思います。その際にはまたいろいろな角度からの意見、いろいろな人との関わりが必要になってきます。いろんな取組の中で、地域で存在する学校でありますので、地域の理解を基に、財政上の問題など、早めその状況を把握して、今後の取り組みを進めていきたいというところでもあります。この件については、今回で終わることでは無いので、随時状況を見ながら調整していく必要があると思います。場合によってはまた、総合教

	育会議で議論していただくことがあると思うので、よろしくお願ひします。
渡具知武豊市長	資料2ページの(2)のイについて、中山分校に関してですが、基本的には屋部小学校に統合を検討するということですが、現状として何名分校に在籍していますか。
学校教育課主幹	資料4ページに各小学校の在籍状況があります。中山分校は1年から4年までなのですが、1年生と4年生が不在で2年生が2名、3年生が5名合計7名になります。
渡具知武豊市長	中山分校の保護者には屋部小学校に合併する説明はしていないのですか。
学校教育課主幹	平成18年二見以北の統合の際に中山分校についても、屋部小学校に統合と答申で出されて、その当時、意見交換を実施していますが、区として反対の意見が出されて、教育委員会としては、当時それ以上は踏み込めなかったということで、以降は特に意見交換等も行っていない状況です。
渡具知武豊市長	わかりました。
宮城恵次委員	以前、かなり厳しかったということですが、やはりこの状況からすると年々変わっていくので、繰り返しアプローチしていく必要があるのではないかと思います。前はそうであったけども、変わっていく可能性もあるのではないかと。
渡具知武豊市長	複式学級についてのデメリットのお話がありましたが、そういう認識はどの先生方も考えるところだと思います。けども、地域の意見も聞かないといけないというのはありますから、そこも丁寧に対応していただければと思います。 他に意見はございませんか。
委員	特になし
渡具知武豊市長	それでは、以上をもちまして令和5年度第1回名護市総合教育会議を終了します。お疲れさまでございました。